

上越カリキュラム

Joetsu Curriculum Development Study

上越市立教育センター
上越カリキュラム開発研究推進委員会



謙信公居城 春日山山頂より上越市内を望む



第1章 上越カリキュラム開発研究

- 1 上越カリキュラムの特色…………… 1-1
 - ・上越カリキュラムの開発について
 - ・上越カリキュラムって、何！
 - ・これから目指すカリキュラム開発
- 2 上越カリキュラムの位置づけ…………… 1-5
 - ・学習指導要領と上越カリキュラムの関係
 - ・上越市学校教育目標と上越カリキュラムの関係
 - ・夢づくり提案活動支援事業とのかかわり

第2章 上越市の学校教育の方向

- 1 上越市学校教育目標で目指す子どもの姿…………… 2-1
- 2 上越市学校教育の課題と方向…………… 2-2
 - I 地域に根差した信頼される特色ある学校・園づくり
 - II 未来を拓く「生きる力」をはぐくむ小・中学校教育
 - 1 学ぶ意欲と確かな学力の育成
 - 2 思いやりに満ちた豊かな心の育成
 - 3 健やかな体の育成
 - 4 夢・希望・未来をつなぐ教育の推進
 - 5 互いに認め合い、共に生きる社会を目指す教育の推進
 - 6 児童生徒一人一人の教育的ニーズに基づいた支援を実践する特別支援教育の推進
 - III 幼児一人一人の望ましい成長と発達を促す幼稚園教育

第3章 特色あるカリキュラムプラン

- 1 特色あるカリキュラムの編成と実施…………… 3-1
 - A 学校課題の把握と解決に向けた戦略へのアプローチ
 - B 学習内容の構造化と体系化へのアプローチ
 - C マネジメントと組織作りへのアプローチ
- 2 特色あるカリキュラムモデルプラン…………… 3-18
 - A 学習素材を中核に学習内容・学習活動を構成するカリキュラム
 - ① 上杉謙信 ② 米作り ③ 雪
 - B 「目指す子ども像」「育みたい力」の育成を目指すカリキュラム
 - ア 学力形成
 - ④ 言語力 ⑤ 思考力・判断力 ⑥ 表現力
 - イ 今日的な課題
 - ⑦ 環境教育 ⑧ キャリア教育 ⑨ 国際理解教育
 - ⑩ 同和教育 ⑪ 道徳教育 ⑫ 情報教育

第4章 教科等の基本計画プラン

- 1 教科等で育てる「確かな学力」「ふるさと上越を愛する心」… 4-1-1
- 2 学力の向上を目指した教科学習…………… 4-2-1
 - (1) 新学習指導要領の改訂の基本的な考え方と上越市の児童・生徒
 - (2) 上越カリキュラム基本計画作成にあたって重視すること
 - (3) 活用場面での授業づくりを考える
 - (4) 移行期の校内研修充実のために
 - (5) 国語科の重点事項及び事例
 - (6) 算数・数学科の重点事項及び事例
 - (7) 理科の重点事項及び事例
- 3 上越らしさを学ぶ「ふるさと学習」…………… 4-3-1
 - (1) 教科で学ぶ「上越らしさ」
 - (2) 国語科：郷土の作家の作品から学ぶ「ふるさと学習」
 - (3) 社会科：郷土が生んだ偉人の生き方から学ぶ「ふるさと学習」
 - (4) その他の教科等における参考事例

大らかなバランスのあるカリキュラムの創造に向けて

上越市教育委員会教育長 小林 毅夫

いよいよ新学習指導要領が動き出します。世界的な学力水準の確保や、そのための習得・活用・探究といった学習サイクルの確立など、国の示す教育の方向性に準拠しながら確かな教育活動を展開することが求められています。同時に、学校現場には地域と連携した教育の伝統が脈々と流れており、人づくり、地域づくり、未来づくりに向けて地域住民からの大きな期待が寄せられています。その意味で、新学習指導要領への移行を展望し、地域の未来を切り開いていく子どもたちの教育のあり方を考えていく重要な時期に当たっています。

現実には、新学習指導要領において、多くの目標を同時に追求し、多くの面に配慮しつつ、バランスのよい教育課程と指導を可能にすることが求められています。主要教科の授業時間増をはじめ、言語と体験の重視、小学校外国語活動への対応、総合的な学習の時間の見直しなど、多くの課題に取り組んでいかなければなりません。これまでの独自性のある実践研究の成果の上に、「大らかなバランス」感覚をもって、それぞれの地域にふさわしいカリキュラムを編成していくことが大切です。

上越市教育委員会と上越市立学校が互いに連携して、平成18年度から準備を進めてきた「上越カリキュラム」は、この新学習指導要領を展望しながら、上越市としての独自性のある教育を実現していくために取り組んできたものです。そこでは、上越市の学校教育の方向性や方法等について統一性・共通性をもちながら、上越市の学校教育目標の実現を目指すとともに、学校の創意工夫・特色ある教育活動をこれまで以上に推進し、学校教育の質の向上を図ることを目的としています。

したがって、「上越カリキュラム」は、上越版の学習指導要領という性質のものではなく、学びの場で生成される実践過程にモデルを置き、そのカリキュラム開発の研究や実践のための研修をも含んだ総体として考えてきました。カリキュラムのモデルプランや教科等の基本計画等の内容と合わせ、あくまでも学校の主体性を尊重しつつ、すべての学校が取り組まなければならないカリキュラムについての研究やモデル開発、研修などを行う機能を総称して「上越カリキュラム」と考えてきたのです。

このたび、『上越カリキュラム』を刊行することができました。ここには、新学習指導要領への移行措置を配慮したモデルプランも盛り込まれおり、今後の研究・開発にあわせて差し替えができるようにとバインダー（ファイル形式）といたしました。また、各学校が独自性のあるカリキュラムを編成し、マネジメントを進めていくために極めて大きな役割を果たすと思われる「視覚的カリキュラム」システムが開発され、各学校に提供されることになりました。

各学校において、大いに議論し、開発されたモデルプランやシステムを有効に活用して、創意あふれた教育活動を展開していただきたいと思います。そして、この刊行をひとつの契機として、さらなるカリキュラム研究・開発・研修が進んでいくことを期待します。最後になりましたが、上越カリキュラム開発研究推進委員会をはじめ関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

『上越カリキュラム』の刊行にあたって

上越市立教育センター所長 寺田 喜男

「視覚的カリキュラム」が、「上越カリキュラム」のKEY-WORDの一つとなっています。「上越カリキュラム」は、各学校の教育課題解決を目指すための独自性のある動的・可変的なカリキュラム開発と支援を目指しています。そこでは、各学校の課題解決のために、核としている学習と教科・領域の学習内容とのかかわりを具体的な姿として把握していくことが、これまで以上に必要となっています。ここでは、すべての学年で教職員が学習項目の関連を体系的に、かつ「視覚的」に意識することが効果的です。このような「視覚的カリキュラム」イメージとICTを利用した作成方法が示されたことで、「上越カリキュラムの目指す方向」、即ち「“創り続けていく”“学校の特色を生み出す”“学校の主体的な取り組みが保障される”カリキュラム」へと大きく前進することを予感しています。本書を参考に、一層高い視点を持ち、子どもの教育課題、地域課題を踏まえた各学校の特色ある教育課程が編成され、活発な教育活動が展開されることを期待しています。「上越カリキュラム」は、ようやく緒についたばかりです。多くの皆様のご意見・ご叱正をお願いいたします。

最後になりましたが、これまで指導をいただきました上越教育大学教授梅野正信先生、横浜国立大学准教授金馬国晴先生、精力的に本カリキュラム開発研究に当たっていただきました推進委員の皆様、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

上越カリキュラム開発研究推進委員長 村山 暁

学習指導要領が新しく改訂され、各学校では来年度から始まる移行措置の実施に向け、自校の教育課題を明らかにして特色ある教育課程の編成に全職員で英知を絞り取り組んでいることと思います。当委員会では、昨年度に引き続き横浜国立大学准教授金馬国晴先生と、今年度新たに上越教育大学教授梅野正信先生をお迎えし「上越カリキュラム」の開発研究の一層の取組を図って参りました。

上越カリキュラム開発推進委員会では、これから目指すカリキュラム開発の方向として、①子どもと生成していくカリキュラム、②特色を生み出すカリキュラム、③学校が主導権を発揮するカリキュラムを柱に考えてまいりました。①では、子どもとともに創り続けていくカリキュラムを目指します。子どもの学びのすばらしさを大切に、自らカリキュラムをつくるよさやおもしろさを感じ取ることが、教師をはぐくんでいくことになると考えたからです。②では、特色ある学校づくりや各教科等を横断してはぐくむカリキュラム開発を目指しました。学校におけるすべての教育活動を関連づけるカリキュラム開発が大切であると考えたからです。③では、国や県、社会から要請されるものを、上越市全体として共通のもの、必ずおさえるものを整理し、モデルの作成・提示を行うことです。

お二人のご指導の下、「上越カリキュラム」の目指す方向や地域モデルの機能面ができあがりつつあります。この『上越カリキュラム』を元に、各学校では視覚的カリキュラムを大いに活用し課題解決に取り組んでいただくことをお願いし挨拶といたします。